

# ブラジル・エンブ市で

## 交流の輪を広げる

### 「訪問親善使節団報告」

サッカーワールドカップ2014の開催国、ブラジル。日本から見て地球の反対側といわれる距離の遠さにもかかわらず、日本とはとても縁深く仲の良い国です。

そのブラジル連邦共和国エンブ市と相撲がとりもつ縁で1984年（昭和59年）5月に姉妹都市提携の調印を行い、今年で交流30周年を迎えます。

文化・スポーツ面を中心に住民レベルの交流を広げるため、6年ぶりにサンパウロで開催される日本祭りに合わせて、エンブ市から招待を受け7月2日から10日までの9日間、平尾副町長を団長に5名の親善使節団が訪問しました。



エンブ市議会への表敬訪問



日本人会の方々との交流



平尾団長とエンブ市長（写真右）



エンブ市役所を表敬訪問

**7月2日** 関西国際空港から、韓国仁川、米国ロサンゼルス経由の東回りコースでサンパウロ国際空港まで機内はエコノミー席。座席は狭く身の自由なさが辛抱のしごころの25時間、空の旅でした。

**7月3日** 現地時間で、午前10時半過ぎにサンパウロに到着し、空港でエンブ市の皆さんの温かい出迎えを受けました。

最初に向ったのは、エンブ市議会。議会休会中にも関わらず議長をはじめ議員の皆さんから温かい歓迎を受けました。議場など見学させていただき、正面にはインディオが描かれており、傍聴席の広さにも驚きました。また、夜にはエンブ市主催の歓迎会に出席し、記念品の交換などを行い交流を深めました。



エンブ市内に建設中の公営住宅の視察

## アートの街エンブ市

エンブ市は、緑の多い丘陵地にある坂の街。公共の建物、印刷物に「アートの街エンブ市」と書かれています。人口25万の大都市で、反面、貧富の差は著しく、病院、学校、公民館すべて建設中の発展途上都市でもあります。市長は47歳、議長は38歳と若い原動力があるだけに今後の発展は目覚ましいと思えます。

どなたも開放的かつ親密にお付き合いいただきました。同邦日本という繋がりで、理解しあえる日系人との、心温まる一期一会の交流。今回機会をいただき感謝しています。

日野町国際親善協会 木瀬 昭子



書道での交流

## 書道と歌での交流

役場を出発してから36時間、はるかかなたのサンパウロ国際空港に到着しました。議会代表としては平成4年以来22年ぶりの訪問となりました。初日はエンブ市議会へ訪問、議長はじめ州議員や連邦議員も来られ有意義な交流となりました。

また日系の方々から熱烈な歓迎を受け、書道交流やギター演奏でみんな一緒に日本の歌を合唱しました。食事美味しく、天候にもめぐまれ充実した日程で貴重な体験をさせていただき帰国の途に着きました。

日野町議会代表 村島 茂男



ギター演奏で歌の交流

団長／平尾義明、団員／村島茂男、西村みつみ、木瀬昭子、随員／山田敏之



7月4日

午前7時30分に市役所を表敬訪問。副市長や職員の方々朝食を食べながらエンブ市の現状について説明を受けました。その後、職員の案内で、住宅の真ん中に新しく建築された幼稚園や建築中の公営住宅、区画整理の現場などを見学。街は、石畳と坂のある落ち着いた閑静な田舎町でしたが、周辺は、ファベラといわれる簡素なブロック造りの住宅が丘に張り付くように密集しており、一目瞭然と貧富の差が伝わってきました。

7月5日

サンパウロの日本祭り会場に向いました。ブラジル日本都道府県人会連合会主催による催しで、今年で17回目となり、20万人が訪れます。舞台では各種の芸能発表が行われ、各県人会のボックスでは、郷土自慢の食べ物に長い列ができていました。そこは、遠いブラジルにいたことを忘れてしまいそうな感覚、日系人が日本の文化をいかに大切にしてきたかを痛感させられました。その夜は、エンブ市に戻り、日系市民で構成されているエンブ日系人会との歓迎夕食会に出席。日本人会館で皆さんが調理された手作りの日本料理をいただき、移民の歴史や苦労話もうかがいながら、書道や歌の披露で心の通じた楽しい交流の時間を過ごしました。

今回の使節団訪問では、これまでの交流の積み重ねを実感しました。また、ブラジルの歴史や今日の課題についても学ぶことができました。今後、さらに交流の輪が広がることを願い、感動と感謝の思いを胸にエンブ市をあとしめました。

### ◆問い合わせ先

企画振興課 秘書広報担当 ☎065550